2022（令和４）年度 学生教育改善会議 報告書

大阪大谷大学 FD 部会

Ⅰ．はじめに

大学では、FD(ファカルティ・ディベロップメント：大学の教育内容や方法等に関する研究・研修を組織的に行い、教育改善につなげていく活動のこと)が義務付けられており、本学においてもさまざまな FD 活動を実施し、隔年で FD 報告書としてまとめています。

より効果的な FD 活動を実践していくために、2018（平成 30）年度より教職員と学生が組織する「学生教育改善会議」を設けました。この会議では、各学科・専攻から選出された代表学生（学生委員）に協力いただき、学生による FD 活動の検証のほか、日常的な授業や教育環境、カリキュラム等に関する意見交換を実施しています。

2022（令和４）年度は、8 名の学生委員のみなさんの出席のもと、2022 年 8 月 30 日(火) 13:00 より、①授業評価アンケートおよび授業改善、②カリキュラム（教育課程）、③教育環境（教室の設備）、④遠隔授業について、事前に回答いただいた内容を踏まえ、リモート（Zoom）にて開催しました。

Ⅱ．会議の内容

学生委員からの意見	教職員からの回答
①授業評価アンケートについて	
（文学部） ・共感できた点として、学科全体のアンケート集計表と大学平均を比較すると、まず小テスト課題に対する回答提示やフィードバックなどについては、大学平均より上回っているということで不思議に感じた。一人一人に長文でフィードバックを返してくださる先生がいらっしゃったということが関係しているのではないかと感じた。 ・同意できた点、共感できた点として二つある。一つ目は、文学部のところを見て自学自習時間が大学全体平均値よりは上回っているものの、下がる傾向にある点である。これは、対面やオンデマンド、どちらでも授業を受講することができるために疲労や慣れが生じ、そうした傾向にあるのではないかと思っていたが、課題や演習等の準備を含めた時間として捉えてもいいのだと分かり、学生全体が自身の取り組みを自賛し、もう少し評価を上げてもよかったのではないかと感じた。二つ目は私語が少ない点である。入学当初からコロナ禍だったこともあり、かなり少ない印象を抱いていたが、これは今でも続いているのではないかと思う。疑問に感じたことは、フィードバックに関してである。学生と教員の間に違いがあるのではないかと感じた。私が受けている授業の中では、ほとんどの先生方がすごく丁寧にフィードバックしてくださるため、この項目に関しては、大体５の評価を付けるものが多くあった。しかし、私の周りの友人では、アンケート自体を適当に回答してしまっていることが多く見受けられ、先生が毎回フィードバックしてくださっていたとしても、短時間で回答するとなった際、そのことをすぐに思い出せるかどうかは不明である。丁寧にしてくださる先生であれば、そうした場合でも思い出すことは可能であるが、簡潔に終わってしまう先生の場合は、フィードバックの丁寧さの部分において学生の中で個人差が反映されているのではないかと感じた。	・授業の自学自習時間が短いことに関しては、学生の勘違いがあるのではないかと考えられる。この２年でとても変わっており、以前、学生は課題や演習に対する学習時間、練習準備の時間等を自学自習と考えず、自分で授業と関係なく勉強したことだけを自学自習と考えている節がある。それは少し違うのではないかということを話したことがある。学生は、かなり勉強しているように感じるため、この点に関しては、教員と学生の間で発想の違いが生じているのではないかと思う。演習型がとても多く、自分でやらなければならないことがたくさんあるので、そのあたりをしっかり回答すればもっと結果に反映されるのではないだろうか。出席回数については文学部特有の現象なのか、大学全体の現象なのか、もう一度しっかりデータを見ながら検証したい。 ・フィードバックは授業形態によると思う。対面やオンデマンド、オンラインの同時双方向など様々な形が混在しており、それに合わせてフィードバックの行い方は異なってくる。例えば、対面であれば授業終了後に行えるが、オンデマンドになると一人ずつ行うことになり、とても多くの時間をかけることになる。授業終了後にその場で一瞬で終わる方法とオンデマンドで行う方法を比較すると、オンデマンドではやり取りのタイムラグもあるため、授業形態によって差が出ているのではないかと考える。特に混在授業になってからは、学生によっては比率も異なってくるため、不満や疑問を感じる学生も出てくる一方で、ものすごく良いフィードバックを受けているという学生もあり、そうした差が出てしまう状況が発生しているのではないかと考える。今後の授業形態は対面方向に向かっているため、その中でまた改善されていくこともあるのではないかと思うが、教員が授業形態に関わらず頑張ろうということを共通意識として持つようにする。

学生委員からの意見	教職員からの回答
（教育） ・最初は授業形態が急にオンラインに変更になったことに先生方も学生も、やはり戸惑うことが多かっただろうが、授業回数が増えていくにつれて徐々にインターネットの使い方や授業の進め方に慣れてきた部分が増え、終盤ではお互いに理解できてきたのではないかと考える。また、対面授業だと授業終了後に質問に行こうと思っていても、次の授業や予定等が入っていたために行くことができないことがあったが、インターネットでの授業ではインターネット上で質問ができ、そこで返答していただくことができるなど、その面に関しては授業内容の理解の向上に繋がったのではないかと感じている。 ・オンライン授業では教科書やレジュメ、参考文献、オンライン教材が役立ったというところが、2020 年度の前期から 2021 年度の後期にかけて数値的に上昇している点が印象的であった。次第にファイルの共有などをしてくださる先生が増え、パワーポイントなどを共有してくださることで、授業が受けやすいと感じていた。フィードバックに関してはオンラインばかりであったため、対面と比較することはやはり難しく感じる。しかし、小テストやアンケートで一つ一つ回答してくださる先生が多く、その裏側では恐らくとても大変な中で丁寧に対応してくださっているのだろうという印象を抱いていた。疑問に感じたことは、前回のアンケートなどで「これまでの知識が深まった」や、「新しい考え方・発想が持てた」という質問に関してである。なぜ変化するのかということと、「この授業を受けて満足しましたか」という質問で、例えば不満であったという回答があった場合などには、そこでしっかり何か改善はされているところがあるのか疑問に思った。 ・授業で出された資料を tani-WA で再提示してくれることが、後の課題や復習において役に立ったっていう点が共感できる点である。実習期間の資料や授業内容をレジュメに付け加え、tani-WA で再提示してくれる先生はすごくありがたく感じている。 （人間社会学部） ・共感できた点は、「シラバスに沿った内容だった」についてアンケート欄の数値は大学平均よりも高く、受講率の数値を除いて、2020 年と 2021 年のアンケートで最も数値が高かったという点である。次に疑問に感じたことは、授業評価アンケートの回収率が低下傾向にあるため、回答率を上昇させる工夫は何かあるのかという点である。 ・特に共感できたことは、オンデマンド中心の講義間でただただ小テストを解いたり、課題をこなすだけの習慣がかなり続いていたので、自学自習に費やす時間というのはやはり少なかったという点である。一方で、参考文献やオンライン教材・フィードバック等は年度を重ねるごとによくなっていたため、復習やわからない問題での理解は深まっていたのではないかなと感じた。疑問点・改善した方が良いと感じた点は、このアンケートの質問項目で授業の進め方や総合評価で低いポイントを答えた人に対して具体的な意見を記入してもらうと、より良いアンケート結果が出るのではないかという点である。	・肯定的な意見が多かった印象である。「stream や Zoom に関しては教員も学生もお互いに操作に戸惑っていたが、今では、しっかり慣れて使いこなせるようになった」という点はその通りだと思う。教員も Zoom などを用いた対面ではない授業に不安を抱きつつも、試行錯誤しながら使っていく中で利点を見つけ、資料などのアップロードや各学生が好きな時にダウンロードできるという点は、とても復習などに繋がってきたと感じており、今までなぜこれをやってこなかったのかと疑問視するほど、資料や授業動画などをいつでも取り出して見ることができるというのは、遠隔授業の中ではメリットであったと言え、活用している。また「インターネットを通じて質問することができた」ということについても、その通りである。具体例として、「何か一言」という欄を tani-WA の中に載せているが、授業に関することの質問だけでなく、全く授業に関係ない質問もあり、「先生は夏休みどうやって過ごされますか。」といったやり取りもしていくと、とても楽しく、対面でなかなか会えなかった時でもそうしたやり取りがあったことで、学生もすごく「こういうやりとりが出来て楽しかったです」とか、「コロナでしんどかったけれども、こういう話を聞けてよかったです」というふうに言ってもらっていたこともあったため、そういった繋がりが対面よりもできたのではないかと感じており、対面でのコミュニケーションを苦手とする学生とのコミュニケーションがすごく取れたと感じている。またこれは対面授業でも行っており、例えば tani-WA で小テストなどを出した際にもそうした項目を設けているため、対面＋α、ネット上でのメッセージのやり取りというのもでき、とてもいい状態であると感じている。「知識が深まったっていうところにばらつきがあった」という質問については、疑問に感じているところであるためお答えはできないが、この誤差が誤差の範囲なのか、それとも明らかな傾向なのかということに関して、教員としては高い項目で維持されることを目指すべきであると感じている。 ・受講率のこととして、「授業受講率が年々高まってきていて、自分でも授業に参加して周りを見ていても共感している・同意している」といったことである。この受講率は学部全体を見ると、やはり他学部に比べて人間社会学部が少し低い傾向にあり、特に学部の先生方が意識をしているところで、この数値を高めようと学部の FD 研修会で取り組んでいる。また、「回収率が年々低下してきている」ということについて、コロナ前は授業回数の終盤に紙ベースで実際に授業中に調査を行っていた。ところが、最近はある程度対面に戻っても、オンラインでの回収方法であった。私個人としてこの方法は、本当に学生から授業評価をしてもらおうとする取り組みであるならば、学生がこの回答方法に疑問・不安を感じているのであれば不適切なのではないかと考える。しかしいずれにしても、教員が授業改善を行うということは学生にとってはメリットが大きいため、この辺りを検討していかなければならないと感じているため、学部にて共有する。一方、「オンデマンド、そしてまた対面に切り替わっても遠隔授業の効果で年度を重ねるたびに授業の資料等かなり良くなってきている一方で、遠隔では小テスト・課題をこなすのに時間がかかり、予習復習の時間が少なかった」という意見をい

学生委員からの意見	教職員からの回答
（薬学部） 「実態をどの程度反映していますか？」という質問についてだが、アンケートの提出期限が 7 月末のテスト期間の最中だったことから、私を含めた友人はテスト勉強に必死になっており、気づいたら回答期限を過ぎてしまったこともあったため、前期であればお盆までなど期限を延ばすことができれば、もう少し回答が多くなるのではないかと思う。 同意できた点については、アンケート結果からは一見自習学習の時間が若干少ないように見えるが、授業の小テストや課題等の実習レポートがあったために時間の確保が困難であったことと、アンケートの集計が 1 教科ごとに行われていることからその値が低くなってしまうことについては仕方がないと思う。	ただいた。最近は大学の方からは、特にシラバスでも授業時間以外の時間をしっかりと確保するようにといった内容が出されているため、数多くの先生が様々な視点から予習・復習の資料等が多くなってきているのではないかと考えられる。この時間は、これからさらに改善されていくのではないだろうか。ただ、スポーツ健康学科の学生は特に課外活動に所属していることが多いため、やはり24時間という限られた時間をどのように使うかといったことから考えると、文武両道に課外活動の時間をどう上手く運用しながら、復習・予習の時間を取るかが課題になってくるだろう。そして、「実際に、授業の進め方など色々なところであまり良くない書き込みをした場合に具体的な意見を記入すると、先生方がそれに誠実に向き合ってくれるのではないか」ということについて、特に学科の先生方からはアンケートを取る際に、その点を学生に申し伝えさせていただき、少しでも改善に向かうよう努める。 ・アンケート調査の実施方法については検討が必要であり、他の学習行動調査であれば複数回、督促をかけるタイミングがあるのだが、同様に実施することは難しいため工夫をしていく必要があると感じている。教員にとって自由記述の欄はとても参考になっている。学生視点から授業評価を書いてもらうことで、教員は自身の視点でしか授業を行っていないところから違った視点を獲得することができるため、すべての学生に自由記述をお願いしたいと思っているところである。 ・回収率の問題については、アンケート調査方法の問題になってくるため、これからまた改善しないといけないと思う。また、今年はオンラインで回収を行っていることから、どうしても後回しになってしまったり、その後期限が過ぎてしまう可能性は考えられるため、教員からもリマインドできるような形で授業等行えるといいと思う。そして授業態度・出席率等について、去年のデータであると思うが、薬学部の場合は概ねとても良い結果であると感じている。今年について薬学部はカードリーダーで出席管理を行っているため、学生もしっかり出席している印象である。やはり薬学部の場合は授業を聞いていただかないと独学で勉強していくには非常に大変な面があることから、かなり出席を管理しているため、教員として出席率の結果は良いものであると感じている。また、自習時間については規定上の基準があるが、時間の長さよりも質が問題であり、最近は恐らく多くの授業で授業終了後に tani-WA 等で出された課題を十分にやるということが非常に重要な復習になってくるため、そうしたところにしっかり時間をかけ、それらの教材に取り組む時間をかけていただければ、薬学部としてはそれでよいと思う。ただ 0 時間というのが一番問題であり、薬学部の場合は積み重ねの学問になってくるため、やはり一回抜けてしまうと次にキャッチアップする、授業についていくことが難しくなることから、時間の大小があれども、学生自身なりに次の授業に向けて前回の授業内容をしっかりある程度の復習を行う継続が非常に重要である。そういう意味では薬学部の中でも、特に 3 年生の非常に忙しい学年でマネジメントできるということが、国家試験に向かっていく一つの勉強の土台にもなるため、きっちり生活リズムを整え・作り、勉強して行く習慣をつけていただければいいと感じている。

学生委員からの意見	教職員からの回答
②各学科のカリキュラムについて	
・期末試験の時は実験実習が終わっていたが、中間試験の時は毎週のように実習と授業も行われていたため、試験勉強をする時間があまり確保できなかった。そのため、中間試験の前といった時は実習をお休みにするなどしてほしいと感じた。	・本来、大学の全学のシステムは同時に動いているというところが一つポイントとして挙げられる。大学のシステム上では、もともと期末試験の期間しか設定がされておらず、試験は原則一回となっているところ、薬学部では中間試験も含めて試験範囲を狭くすることで、半分ずつ段落をつけて勉強していただきたいということで、中間試験を設けているという実態がある。試験範囲も短くなっているところもあり、一つのまとめとしているので、試験日程はかなり早く出すように努めている。そのため現状では、それにあわせてコツコツと勉強していただきたいとお願いするしかない。将来的に制度上上手くできるのであれば、変更できればと思う。ただ、ご指摘いただいた中間試験のあり方というものについては、これから議論・検討する余地は十分あるため、これから入学してくる学生・後輩の皆さんが、効率的に勉強できるようなシステム作りを、今後検討して行きたいと思う。
・子どもたちと接する職業を目指して学ぶ学部であるため、二回生の冬頃から実習というものが始まる。それまでに座学で学んだことを実際に子どもたちに触れ合って実践する講義というものを、実習よりも前の段階で開講していただきたいと感じた。やはり子どもたちと接する機会が増えることで、実習でどういうふうに接すればいいのかといった不安を多少なりとも和らげることができ、座学で学んだことを実際にそのまま生かす練習にもなるため、さらにいい保育士になれる学生が多くなるのではないかと感じた。もちろん、コロナ禍でいろいろと難しいと思うが、今後入学してくる学生のためにもぜひ検討していただきたく思う。	・現場体験について、現在２回生では、教育インターンシップという科目があり、実践現場に行く機会がある。講義・演習科目の中で機会を増やす場合は、現場体験に行かせていただく単発の活動を増やすというのであれば可能であると考える。また、1・2 回生では、夏休みや冬休みの間に実習等が行われるところが非常に少ないため、ボランティアに参加し前期で学んだことを夏休みに体験するということを勧めている。学生がやりやすいように、ボランティアの斡旋や募集のあったボランティアに対しての掲示などを進めていくため、実習に行く前に子どもとあまり触れ合ったことがないということがないように、ぜひ現場体験やボランティア、インターンシップ等を活用してもらいたいと思う。また、大学としてボランティアセンターといったものがあれば良いのではないかと思う。
・課題についてであるが、実習の授業で先輩方の指導案や日誌をそのまま書き写し提出するといった課題が出ることが非常に多く、この課題に対して必要性を感じられない点である。恐らくその表現を学んでほしかったのだと思うが、日誌の書き方は人それぞれであり、書き方等は園によっても変化するため、そうした課題はなくてもいいのではないかと思う。しかし、先輩方の日誌等を見せていただく機会は非常に参考になったため、その点は残していただきつつ、書き写すといった課題を少し見直していただきたいと感じる。	・日誌・指導案というものが、実習に参加する学生が実習終了後に現場に行った時に大変苦労するものであると思う。文章を書ける方は自分で考えることができるため、なぜ書き写さなければならないのかと言う方もいれば、日誌を書くとなった時にまず何を書けばいいのかわからないと言う方もいるため、こうした課題の必要性に個人差が生じているのだと考える。日誌や文章が苦手な方が多いため、まずは見本を書き写すという初歩的なことから始めるといったところがあったのだと思う。これについてはぜひ、授業アンケート等で「これは個人差があると思うので、書ける方に対しては別の課題を課して欲しい」ということを書いてもらうと、授業改善につながると思うので、お願いしたい。
・学校教育専攻では複数免許の取得が可能となっている。そんな中、今年度前期の時間割で、結果的には一つの授業が集中講義になったこともあり問題はなかったが、三種類の免許における必修科目が全て同じ曜日時限に重なったことがあり、やりづらさを感じた。そうでなくとも、自分の主免とする免許に関する必修科目でも時間割上に重なりがあるため、授業同士の重なりをもう少し見直していただきたいということと、教育学部の他の専攻はわからないが、学校教育専攻ではCAP 制度の対象にならない授業がとても多いと感じており、CAP 制度の必要性がわからないと感じた。	・学校教育専攻では、小学校、中高の国語、中高の英語というコースになっているため、時間割の重なりがないように先生方と調整を行っている。おそらく幼稚園の免許というところで重なりが増え、小学校と幼稚園、幼稚園と特支という形で重なる部分があったのではないかと考えられる。また、同じ免許でも履修する学年が違った時に重なってしまったということもあり得たのかとも考えられる。具体的な科目名などを学校教育専攻の教務委員の先生方にお伝えいただければ、これからの時間割改善にもつながる。また、ゼミ担当や教務委員の方に 1 度ご相談いただけると、来年度の時間割などが重ならないよう調整

学生委員からの意見	教職員からの回答
・キャリア教育科目について、体系はうまく出来ていると思うが、履修時に勧められた科目に定員が設けられており、満員になれば抽選され、外れると受講できない科目があるという点について改善が必要ではないかと感じた。勧められたことで受講を考える学生も多く、また、抽選から２年連続落選している友人もいるため、授業の実施日を増やしたり、当選のチャンスを増やすことはできないのだろうか。 ・例えば、スポーツ社会学という科目がスポーツ健康学科では必修科目としてあるが、他学科の生徒も履修できる科目であるためかなり人数が多く、先生との授業内でのコミュニケーションであったり、授業終了時に質問に行く生徒が多かったため、可能であれば授業を分けてほしいと感じた。	できるため、相談いただきたい。 ・抽選科目であるキャリア教育科目は、現在一つの授業枠しかない状態である。キャリア教育科目の立ち上げからそれほど時間は経っていないが、履修を希望する学生が非常に増えているという報告があるため、これらの科目においては現在コマ数を増やす方向で検討されている。先生方の担当時間もあるため調整を行いつつ、履修を希望する学生が履修できるような環境づくりに努めていきたい。 ・学生のニーズの高い科目では受講のスタイルから学生に不利益が生じているということであるため、簡単にコマ数の増加が可能であるかは別として、検討していかなければいけない。 ・それぞれの学科の学生との間では興味関心の程度や基礎的な部分の知識が違うことから、授業を分ける、あるいは共通教育科目としての実施を取りやめるといった方向で検討されており、学生の意見も参考にしながら、今後改善を行っていきたい。
③教育環境・教室の整備について	
・音が鳴る・固いといった固定式の椅子の不具合。 ・長机を一緒に使用する際、隣の人から影響を受ける。 ・トイレの手さげカバンなどをかける所が不足している。 ・通信環境の整備の改善が必要ではないか。 ・グループ学習をする場所が必要ではないか。 ・食堂の座席数の不足している。 ・階段教室の段差など、基本的な環境・整備の改善が必要ではないか。 ・大きな部屋、特にＬ教室における階段教室で上から下まで非常に温度差があり、冷暖房で寒い時期等にすごく寒い思いをしながら授業を受けている。 ・プロジェクターの写り方が悪く、見えにくい。	・昨年も学生員より荷物をつりさげるためのフックの設置を希望する声があり、その後すぐに施設の方に設置状況を確認してもらったことがあった。個室はおそらく置くところがあると思うが、小便器の方については施設係と相談しようと思う。 ・Wi-Fi 環境については何人もの方から指摘があり、パソコン必携と言っておきながら大学に来て使えない状態では全く意味がないため、キャンパス内における接続状況の調査を行った。その結果を受け、順次整備を進めている最中ではあるが、実は繋がらないところがまだ残っている。順次整備をして行きたいと考えているところで、途上であるということをご理解いただきたい。 ・グループ学習室については数人で集まり勉強ができる環境がないというわけではないが、使いやすさの点に問題があると感じているため検討していきたいと思う。 ・教室内の温度の問題は、やはり大きい教室であると場所によって温度差が生じ、小教室でも風が直に当たるところと全く当たらないところというのが出てしまう。これまではおそらく学生自身がその事情を把握し、自分で席を変えていたのではないかと思うが、今は指定席になっているため自身で自衛していただくしかない。これについても具体的にその状況を教えていただければ有難く思う。 ・グループ学習に関しては、今、ラーニングコモンズといった形で整備をしているところである。別の会議で学生委員より「勉強する際に大声で喋る」、「音楽をかける」といったことが時折見受けられるといった使い方について指摘を受けた。運用方法について別途考えていかなければいけないと感じている。しかし、学生が学習したりグループで議論するような場というのはまだまだ不足している状況にあるため、いただいた貴重なご意見を前向きに捉えて検討していきたいと思う。
④遠隔授業について	
・６時限にオンデマンドを集中させたことに関して、対面とオンデマンドを分けることができたので、学習環境を整えやすかった。	・課題について、多くの先生方は、学生が対面授業とオンデマンド授業を両方受けているということをよく理解くださっているため、課題等は調整してくださっていると思うが

学生委員からの意見	教職員からの回答
・映像資料・レジュメが充実した。 ・課題の提出も十分時間を設けられた。 ・授業のスライドをまだ配布できていない授業もあった。 ・課題の提出期限が短かった。 ・課題が過度であった。 ・集中講義を、急遽遠隔授業に変えたということで、その通知が遅くなり定期券などのこともあるため、わかった時点で早めに連絡がほしい。 ・これまで作った、動画資料を使いながらもう一度授業されている場合があり、再度作り直す方がわかりやすい。・教科書などのページ数や年度が一致していないのではなく、動画の映り方についてである。例えばそれは、ホワイトボードで授業をされている先生であったが、昨年度の時点でホワイトボードがしっかりと映っていない動画であることを確認されているにも関わらず、そのまま使用し、一部しか見えない状態のまま授業を行っていたため、もし撮り直しが可能であるならば撮り直した方が受講しやすい。 ・tani-WA への連絡方法について、tani-WA にコメントが書かれたりするとメール通知が届くようになっているが、その通知を知らない方がいるため、学生にも通知をオンにするよう提案する。 ・動画資料等を閲覧できたかどうかなども確認できればいい。ログの記録が残らない、閲覧した記録が学生側ではわからない。 ・オンデマンド授業である時に先生方が課題の提出方法を全て文字で表示している場合に限って言えることだが、言葉の書き方によって提出方法が違ったということが実際にあったため、もう少し詳しく丁寧にどういう風に提出して欲しいのか、またどういうことを書いて欲しいのかといったことを、より分かりやすい言葉、表現を選んで書いていただければ嬉しいと感じた。 ・過度な課題提出の要求として対面とオンデマンド授業が行われている時に課題を多く課せられ、対面授業と同時に進めるとなった時、やはりオンデマンド授業課題に時間取られることが多かった。	対面授業でも小テスト課題に取り組まなければならないことから、一週間が期限のオンデマンド授業を受講する時間管理が難しく、過度に感じるということであった。 今回挙げていただいた遠隔授業の改善点に関しては、改善が可能なところと、これからまた遠隔授業と対面授業を並行して同時に行うかどうかといったところを、いただいた意見をふまえながら検討を重ね進めていきたい。

Ⅲ．総括

学生教育改善会議を開催し、今後大学が取り組まなければならないことは以下の 3 つに集約されます。

1．授業評価アンケートの効果的な実施と活用について

昨年度と同様、授業評価アンケートを 2020(令和 2)年度より Web を利用した実施に切り替えたところ、年々、回答率が低下しています。アンケートの実施方法や実施時期、学生へのリマインド方法について見直し、自由記述への回答も含めてすべての学生のみなさんが真摯に取り組めるよう継続的に検討していかなければなりません。また、授業評価アンケートを踏まえた授業改善に向けた授業担当者による評価考察の公表時期や公表方法について見直す必要があります。自習学習の時間の確保については、多くの大学が抱えている課題でもあります。学生と教員の自習学習に対する認識の違いがあるという意見が多数あり、2022 年度より変更した質問文の効果を検証します。さらに、学生のみなさんが主体的に学習に取り組んだことを実感できるようなアクティブラーニングを取り入れた授業実践、課題提示方法などについて、教員間で意見交換や授業公開を実施し、授業改善に取り組んでいきたいと考えています。

2. 学科のカリキュラムについて

取得希望の資格・免許科目の履修時間について、配当学年の検討やカリキュラムに関する意見がありました。各学部学科のニーズを分析し、今後もカリキュラムを継続的に検討するとともに、クラス数の設定や時間割配置などを検証し、学生のみなさんへの丁寧な履修指導に努める必要があります。

3.遠隔授業の実施について

新型コロナウイルス感染対策として、2020(令和 2)年度より遠隔授業を実施しました。今年度に引き続き、2023(令和 5)年度も一部の科目にて実施します。教員が得た遠隔授業の知識や技術だけでなく、学生のみなさんの経験も極めて貴重であり、遠隔授業に関する学生委員からの意見にあるように、欠点だけでなく利点も多く挙げられています。次年度は本館の耐震工事も予定されており、受講時の教室環境の改善も進められています。本学では対面授業と遠隔授業との併用は継続すべきであり、今後の授業のあり方について教職員と学生のみなさんと意見交換を継続し、実現可能な改善点から取り組んでいきたいと考えます。

最後に、事前の意見準備に加え、当日の会議に参加され活発な議論をしていただいた学生委員のみなさまに、厚く御礼申し上げます。